

# かかわりを通して思いやりの心を育てる

～就学前から始まる学びのつながりを意識して～

府中市立四谷小学校

校長 島田 文江

## 1 主題設定の理由

本校は 20 以上の保育園や幼稚園から新入生を迎えていた。就学前の教育を入学時に生かしきれいなことが影響し、いじめや不登校等の問題行動が発生した場合に長引く要因となることがある。幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿として示される「自立心」「協働性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会性」「言葉による伝え合い」等は、入学後も必要とされる資質・能力である。特に、「言葉による伝え合い」は、意図的な指導の下での日常的な積み重ねが欠かせない。

通常は、5 歳から小学 1 年生までとするかけ橋期の教育の期間を延長し、義務教育の前・中部分を占める小学校の 6 年間を含めて、繰り返し実践したいと考えた。

## 2 研究のねらい

就学前の学びの芽を入学時に 0 にせず、言語活動を介して、保育園や幼稚園の願いや思いを含めてつなぎ、小学校の 6 年間をかけて人格の完成に近付ける。

## 3 研究の内容

保幼小のかけ橋期の重要なポイントである、「つなぐ・高める・支える」活動を校内研究として取り上げ、全校体制で充実を図る。地域の教育機関の連携を通して地域や保護者を巻き込み地域の子供を育成するという意識を醸成する。

### (1) つなぐ（発達の段階を見通す）

昨年度より、保幼小の教員が、各園・小学校の文化的・体育的な行事を相互に参観している。体験を通して、発達の段階に応じた行事の在り方を見直す機会としている。

今年度は、夏季休業中に、本校の全教員が地域の 8 つの保育園や幼稚園の保育を参観した。座学では分からぬことを、見て感じることを重視した。昨年度、保育園から示された「かけ橋期のカリキュラムマネジメント【国語】」<sup>\*1</sup>を基に、2 学期以降の校内研究授業で活用することとした。この参観では、体験を通して地域や保護者の願いを体感することも、ねらいの一つとした。

### (2) 高める（幼児教育と小学校教育を結ぶ／各学年間の教育を結ぶ）

昨年度から校内研究授業と授業後の協議会にも各園の教員に参加いただいた。今も継続している。今年度は、校内研究のテーマを保幼小の連携を基に、「かかわりを通して思いやりの心を育てる」としたため、全学年・全学級がスタートカリキュラムに取り組んだ。

入学・進級時の1～2か月間を、誰もが安心・安全であると感じる“学年の入り口”になるように保障した。

2学期（9月～11月）に、児童の“言葉による伝え合い”=かかわる力を高めるねらいの下、校内研究授業として低学年の特別活動、中学年の総合的な学習の時間、高学年の道徳科の授業を、地域の保育園や幼稚園に公開する。12月には、保育園と協働で1年生の国語科の研究授業を構成し、子供の学びに深く関与することを、市内の保幼小の関係者に公開する予定である。

### （3）支える（特別な配慮を必要とする子供や家庭を支援する）

今年度の5月、本校で、地域の8つの保育園と幼稚園の園長及び教員と、府中市から統括指導主事をお招きして総計25名で交流会をもった。

本校の4名の1年生担任を中心に音楽専科や養護の教員も参加し、今年度のスタートカリキュラムの報告、外国語やプログラミング等、新しくて馴染みの薄い小学校の新たな学習内容の説明を行った。予め交流会で話題にすることを決め、教員同士の顔合わせ・入学後の子供の様子の情報交換等の他に、年間を通して追るべき課題の方向性を明らかにした。また、顔合わせを経たために、入学後の諸問題が生じた際に、保育園や幼稚園の力を借りることができた。

画像1. 教員交流会



4 表1. 府中市の架け橋期の一覧表（府中市のHPより抜粋）

| 幼保小の連携「府中の架け橋プログラム」<br>つなぐ><高める><支える>   |  |
|---|--|
| <b>1 「架け橋期」の現状と課題</b>   | <b>2 目指す方向性</b>  |
| <p>幼保園における教育は、生理的である人権尊重の基礎を育成とともに、小学校は他の段階の基礎を育成する上で重要なものとなります。小学校の教育においては、幼児期における教育によって育れた資質・能力をさらに伸ばし、学習や生活に生じていくことが大切です。そのため、幼稚小連携の重要な役割は、幼児期及び小学校における教育に取り組むすべての機関が、それぞれの教育者や教育の目標、施策について十分に理解した上で、円滑な連携を実現することです。このため、府中市では、幼稚園と小学校との連携を図るために、以下の取組を実施してきました。</p> <p>【現状】「架け橋期」を生かした教育を一層強化し、令和6年度以降「府中の架け橋プログラム」として取り組んでまいります。</p> | <p>○架け橋期の力がユーラムについては、幼保小が協働し、其の視点を持って教育課程や両園園庭等を具体化できよう、「幼保園時代より今まで育ててほしい事」を明確化し、育成を目指す資質・能力を教育に入門するうえで、より効率的に育むことを目指します。また、幼保小の連携と一緒に取り組む評議・改善・実践させていく。</p> <p>○連携協議会で、幼稚園の取り組みについて、年長児の学年会議・年少児の学年会議・各学年リーダーシップの発展などもやることで、子供たちが安心して入園する環境をつくり、育質・能力をつなぐカリキュラムの継続・実践が図れることで、安心・安全な連携をめざします。</p> <p>○幼保小の連携の実現を十分に考慮し、計画的に実施していく。</p>                       |
| <p>幼稚園と保育園は、遊びを通して「学び」を育むことで、多様な社会で健闘する力や、思慮深さ、想像力を育む。自己表現力、自己制御力、集中力、創造力を育む。また、友達と共に遊ぶことで、様々な経験や学びの幅を広げる。</p>  | <p>●遊びは人生にとっての「学び」</p> <p>「架け橋期」は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期</p>  |
| <p>「3つの架け橋」<br/>つなぐ&gt;&lt;高める&gt;&lt;支える&gt;</p> <p>つなぐ&gt;&lt;発達の段階を見通す&gt;「架け橋期」の教育の充実</p> <p>高める&gt;&lt;幼児教育・小学校教育を結ぶ取組の充実</p> <p>支える&gt;&lt;特別な配慮を必要とする子供や家庭への支援</p>   | <p>●幼稚園と小学校連携、研究会を開催するなどして、幼稚教育施設とともに小学校の教育内容を理解するなどして、幼稚教育施設の教育内容を充実して「主体的・対話的で探求型の学び」を実現する。</p> <p>●幼稚教育施設においては、小学校教諭を対象して「主体的・対話的で探求型の学び」を実現する。</p> <p>●小学校は、幼稚教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて「主体的・対話的で探求型の学び」を実現する。</p> <p>●幼稚教育施設は、幼稚教育施設で育まれた資質・能力、小学校の各教科等における学習内容に接する機会を充実させ、特に、幼稚園時代から持続的に小学校へ向けての学習内容に接する機会を充実させる。</p> <p>「幼児教育の継続性」により、保育園と小学校に接する機会を増やす。</p> |
| <p>幼稚園連絡会<br/>小学校との情報共有会</p> <p>1回目(5月-6月)<br/>-小学校1年生の学年を参考するとともに、情報の引き渡しを行つた<br/>子供について情報を共有するなど</p>  | <p>2回目(夏季休業期間)<br/>-小学校の教育と小学校の教育との連携を実現する。<br/>-情報の引き渡しを行つた</p>   |
| <p>3回目(11月)<br/>-幼稚園と小学校の連携を実現する。<br/>-情報の引き渡しを行つた</p>  | <p>●幼稚園と小学校連携を実現するための取組として、幼稚教育施設・小学校・子ども達を対象とした会議(ハイタッチ会議)、医療等の関係機関との連携会議により、切れ目ない支援策を実現する。</p> <p>●児童と保護者が同じ場所で運動会を行うことによって、児童の運動能力の向上と、保護者の運動に対する意識の向上を図る。</p> <p>●幼稚教育施設は、一人一人に応じた適切な支援を実施する。小学校は、幼児教育施設における支援を、引きついで必要な支援につなげる。</p> <p>→幼稚教育施設や小学校における子供の多様性に配慮した教育の充実に関する好材料等を収集・蓄積して活用</p>  |

表2 R7 保幼小の情報共有の機会

| 時期         | 主な活動内容      |
|------------|-------------|
| <b>新学期</b> | スタートカリキュラム  |
| <b>5月</b>  | 教員同士の交流会    |
| <b>5月</b>  | 小学校の体育学習発表会 |
| <b>夏休み</b> | 小学校教員の保育参観  |
| <b>2学期</b> | 小学校の研究授業    |
| <b>秋</b>   | 保育園・幼稚園の運動会 |
| <b>10月</b> | アプローチカリキュラム |
| <b>11月</b> | 小学校の展覧会     |
| <b>3学期</b> | 園児の小学校訪問 他  |

### 5 事例紹介と考察

#### （1）つなぐ事例（発達の段階を見通す）

##### ① 各園・小学校共存の行事

###### ◇ 学習発表会（音楽会）

昨年度の11月、近隣の2つの保育園の5歳児を音楽学習発表会のリハーサルに招いた。1年生は懐かしい保育園の友達や先生を前に、より張り切って演奏をすることができた。

## 画像 2. 保育園ごとに記念撮影



## 保育園のおたよりに掲載された記事

保育園便りから、5歳児の様子を一部抜粋

11月中旬に、四谷小へ行き発表会のリハーサルを観ました。発表に圧倒されたり、世界観に入り込んだりと興味深く鑑賞していました。その日から、朝や帰りの会の歌や「♪あしたははれる」がいつもより丁寧で綺麗に歌えるようになりました。立ち姿も見ていたので、合唱・合奏の前後に微動だにせず立つ意識も強くなつたように感じます。小学生への憧れが、これからどのような形で良い影響として広がっていくのか、期待しています。

## ②小学校教員の保育参観の感想

◇給食担当の教員は、園児が給食を残さず完食していることに驚いた。保育士は、対話を通して量を加減し、少しでも食べるように仕向け、配られた分は食べるように指導しており、残菜が驚くほど少なかった

◇音楽担当の教員は、小学校1年生がゼロスタートではないことに気付いた。  
保育園に望むことはなく、私達が変わらなければいけないと話した。

◇鉛筆の正しい持ち方のコツを、三点持ちと、輪が見えるように指導していた。

## ③新1年生保護者の意識を入学前からつなぐための行事

◇令和7年1月、土曜参観を利用したプレスクールに園児の保護者が13名参加した。

(ねらい)：在校生の授業参観の時間割の前に、1年生の4クラスの授業を公開した。  
親子、または保護者が入学前に1年生の学びと生活を知るための一助とした。

◇令和7年2月、給食試食会に園児の保護者が25名参加した。

(ねらい)：食は学校生活の大切な一部分である。保護者の関心も高い小学校の給食を、保護者が予め体験し、子供と共に小学校生活の始まりを楽しみに待てるようにした。

## 【考察】

①を通して保幼小の互いの行事について比較できた。②を通して全教職員が地域の幼児教育を体験し、幼児の実態とカリキュラムについて理解を深めた。③を通して、入学前に約1/5の保護者と対面できた。

## (2) 高める事例（スタートカリキュラムで保幼小を結ぶ／各学年間の教育を結ぶ）

表3は、1年生の2週目の指導案である。黄色で示した“のびのびタイム”では、就学前の各園での遊びや身辺自立の活動を取り入れた。のびのびタイムは、桃色で示した安心・安全を目指す“なかよしタイム”と共に少なくなった。5月に、のびのびタイムとなかよしタイムは、一旦0になったが、友達同士のかかわりが不安定になりがちな2学期当初はこれらを復活させる。

## 画像 3.

### 文字のおけいこ



①表3. 今年度 1年生2週目の週の指導案

2年生以上の学年も、安心・安全を合言葉にスタートカリキュラムに取り組んだ。学年

| 朝           | 児童朝会  |  |  | B時程  |                              |  | C時程   |  |                                     | D時程  |  |  | E時程  |  |  | F時程  |  |  |
|-------------|---|--|--|--|------------------------------|--|---|--|-------------------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|             | 国語  | 国語   | 国語   | 体育   | 体育                           | 体育   | 国語  | 国語   | 国語                                  | 国語   | 国語   | 国語   | 行事   | 行事   | 行事   | 行事   | 行事   |  |
| 1<br>校<br>時 | おはなしきたいな<br>読み聞かせ「おはなしきたいな」書写体操・鉛筆の持ち方・運筆の仕方・文字指導                   | たのしくあそぼう<br>体育館（きがえっこ）並びっこ競争 おにごっこ整列の仕方                            | どうぞ よろしく<br>自己紹介をして、友だちの名前を覚える。学校生活での気付きを伝える。文字指導「し」かけ             | こんなものみつけたよ<br>学校生活での気付きを伝える<br><small>表現 文字指導「う」</small> | 1年生を迎える会                     | 目標の共有や自己紹介クイズ等の<br>かかわる活動を通じて、学年の<br>つながりを深めようと意識しようとしていた。 |   |  |                                     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2<br>校<br>時 | 体育<br>体育<br>体育  | 国語<br>国語<br>国語   | 算数<br>算数<br>算数   | 算数<br>算数<br>算数   | 算数<br>算数<br>算数               | 算数<br>算数<br>算数   | 算数<br>算数<br>算数  | 算数<br>算数<br>算数   | 算数<br>算数<br>算数                      | 算数<br>算数<br>算数   | 算数<br>算数<br>算数   | 算数<br>算数<br>算数   | 1年生を迎える会の目的を意識して、四谷小の仲間入りをすることを自覚し、所属感を高める。                        | 1年生を迎える会の目的を意識して、四谷小の仲間入りをすることを自覚し、所属感を高める。                        | 1年生を迎える会の目的を意識して、四谷小の仲間入りをすることを自覚し、所属感を高める。                        | 1年生を迎える会の目的を意識して、四谷小の仲間入りをすることを自覚し、所属感を高める。                        | 1年生を迎える会の目的を意識して、四谷小の仲間入りをすることを自覚し、所属感を高める。                        |  |
| 中           |   |  |  |  |                              |  |   |  |                                     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 3<br>校<br>時 | 生活<br>はじめましてがっこ<br>友達いっぽい大作戦<br>・「1年生こんにちは」学年で遊ぶ<br>・1年生を迎える会の練習をする | 生活<br>なかまづくりとかず<br>かぞえっこ 0~10の数の意味、読み方、書き方、構成、順序、系列、大小がわかる。PI02-11 | 算数<br>なかまづくりとかず<br>かぞえっこ 0~10の数の意味、読み方、書き方、構成、順序、系列、大小がわかる。PI10-16 | 図工<br>すきなものなのに<br>友だちいっぽい大作戦<br>自分の好きなものを楽しんで描く。         | 図工<br>つぼ湖の使い方<br>自分の絵を選んで貼る。 | 図工<br>生活<br>生活<br>生活                                       | 生活<br>はじめましてがっこ<br>学校だれけん大作戦<br>知っている事、知りたい事、見に行きたいところ・約束作り対話 | 生活<br>給食がはじまるよ<br>給食の約束・準備の仕方・白衣の着替え方・おぼんや食器の持ち方・片付け方・牛乳の開き方 | 生活<br>生活<br>生活<br>生活<br>生活<br>生活    | 体育<br>なかまづくりとかず<br>かぞえっこ 0~10の数の意味、読み方、書き方、構成、順序、系列、大小がわかる。PI15-17 |
| 4<br>校<br>時 | 音楽<br>友達と声を合わせて歌う   | 音楽<br>伊藤先生 音楽室<br>友達と一緒に体を動かしながら元気に歌う。表現                           | 道徳<br>がっこうだいさき<br>「道徳ってなあに?」学校生活を楽しくする良さについて、自分事として考えている。          | 道徳<br>すきなものなのに<br>自分の絵を選んで貼る。                            | 道徳<br>つぼ湖の使い方<br>自分の絵を選んで貼る。 | 道徳<br>生活<br>生活<br>生活                                       | 道徳<br>給食がはじまるよ<br>給食の約束・準備の仕方・白衣の着替え方・おぼんや食器の持ち方・片付け方・牛乳の開き方  | 道徳<br>生活<br>生活<br>生活<br>生活<br>生活                             | 国語<br>なかよしタイム<br>わくわくタイム<br>ぐんぐんタイム | 国語<br>なかよしタイム<br>わくわくタイム<br>ぐんぐんタイム                                | 国語<br>なかよしタイム<br>わくわくタイム<br>ぐんぐんタイム                                | 国語<br>なかよしタイム<br>わくわくタイム<br>ぐんぐんタイム                                | 国語<br>なかよしタイム<br>わくわくタイム<br>ぐんぐんタイム                                | 国語<br>なかよしタイム<br>わくわくタイム<br>ぐんぐんタイム                                | 国語<br>なかよしタイム<br>わくわくタイム<br>ぐんぐんタイム                                | 国語<br>なかよしタイム<br>わくわくタイム<br>ぐんぐんタイム                                | 国語<br>なかよしタイム<br>わくわくタイム<br>ぐんぐんタイム                                |  |
| 昼           |   |  |  |  |                              |  |   |  |                                     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

表4. 1年生4~5月スタートカリキュラム (15分間を1単位でカウント)

| 何週目<br>内容目的 | タイム名    | 1週 | 2週 | 3週 | 4週 | 5週 | 6週 | 7週 | 8週 |
|-------------|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 保幼経験        | のびのびタイム | 14 | 16 | 10 | 10 | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 安心・安全       | なかよしタイム | 15 | 9  | 4  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  |
| 成長・合科       | わくわくタイム | 15 | 28 | 43 | 45 | 24 | 33 | 38 | 30 |
| 自立・教科       | ぐんぐんタイム | 3  | 16 | 19 | 20 | 15 | 33 | 30 | 24 |

## ②\*1 「かけ橋期のカリキュラムマネジメント【国語】」1年生の事例

### 【就学前の5歳児】

◇かるた・すごろく・手紙ごっこ・ひらがな釣り・しりとりカード・もじかすぽん(ワーカー) 絵本の読み聞かせ後の振り返り・絵のない本の読み聞かせをする。

◇さいころを使った表現遊びや言葉遊びをする。

◇ひらがなを日常から目に触れる保育環境（ロッカー・棚にカードを貼る）を作る。

◇ひらがなを読む体験として、小さなクラスに絵本の読み聞かせに行く。

### 【小学1年生への発展】

◇就学前の、話す・聞く・読む・書く学びの芽を生かして、ひらがな、かたかなに親しみ、読み書きをする。

◇就学前の、カードやさいころの遊びを通して文の構成を知り、話す・聞く・書く等の表現力を高めたり、内容の理解を深めたりする。

### 【考察】

保育園から提示された各教科のカリキュラムマネジメントがあつたために、今年度当初のスタートカリキュラムと具体的な言語活動の実践につながった。12月の1年生の公開授業は、国語科「どんなお話ができるかな」とし、2学期から準備が始まる。2年生以上の学年も、かけ橋期のカリキュラムマネジメント【各教科】を参考にすることとした。

### (3) 支える事例

①表 5. 今年度 5 月の保幼小の交流会の話し合いの総括

|            | 園   | 小学校   |
|------------|---|---|
| 遊び         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・10 の姿に合わせた遊びの活動を発達段階に合わせて計画的に行う。</li> <li>・園の外に行くときに目的を伝え、見通しをもたせる。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を遊びに近い形にし、取り組む。</li> <li>・自由度が高すぎないような場を設定し、安心感を高める。</li> <li>・遊びに工夫を付け加えて、みんなで楽しめるものにする。</li> </ul>  |
| アンガーマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で取り組んでいる指差しカードを活用してみる。</li> <li>・クールダウンの方法を試し、小学校に伝える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園のクールダウンの方法を取り入れる。(リソースルームなど)。</li> <li>・園からの情報を基にクールダウンの方法などを試す。</li> </ul>  |
| 特別支援教育     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭に集団の中での姿を伝え、必要があれば専門機関を紹介する。</li> <li>・入学前の聞き取りや、入学後の交流時に情報交換をする。</li> <li>・「かけはしシート」を保護者に勧める。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学時健診等では集団で見取る。</li> <li>・園の支援の情報を基に、小学校の支援を考える。</li> <li>・「かけはしシート」を基に保護者と入学前や入学後すぐに面談をして、支援方法を相談していく。</li> </ul>  |
| 性に関する内容    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に合わせた言葉で、プライベートゾーンや他者との適切な距離感について伝えていく。</li> <li>・自分と同じように相手も大切なことを伝える。</li> <li>・その人らしさを認める言葉かけをする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水着で隠れる所は、教員、保護者を含め、他者から触られたら相談するよう伝え。また他者のプライベートゾーンも触らない指導をする。</li> <li>・着替えの場を分ける。</li> <li>・見られにくい着替え方を教える。</li> <li>・友達との適切な距離感、言葉遣いなどについて指導する。</li> <li>・自分と同じように相手も大切なことを伝える。</li> </ul> |

②校内委員会に保育士を招く。③保育園の療育の研修会に、小学校の教員が参加する。

#### 【考察】

①②③より、支援が必要な児童への声かけと対応について助言をいただく。保育園の療育をつなげる工夫と、入学時のかけはしシートの活用について情報を共有した。

## 6 まとめ

### (1) 研究を通して分かったこと

各園・小学校の当たり前が、他方から見て驚き感心する場合があり、各々の教育の価値を再確認できた。1年生の担任は、スタートカリキュラムを行い、遊びの時間を取り入れたことで余裕が生まれ、登校渋り等で昇降口まで迎えに行くことが減ったと話した。小学校の教員と各園の職員が、子供の幸せのために、互いの現場に出向き、小1プロブレムの問題に対し、共に向き合い歩み寄り対話する姿が、架け橋期の教育に必要であると深く認識する機会となった。

### (2) 今後の課題

スタンダードとなるカリキュラムマネジメントを作成・実践し、汎用化を図ること。  
そのために記録を取り、学びと育ちを可視化することが必要である。

【共同研究者】第2府中保育園園長 目時 寿美子  
府中市立四谷小学校研究主任 高橋 亜紀